

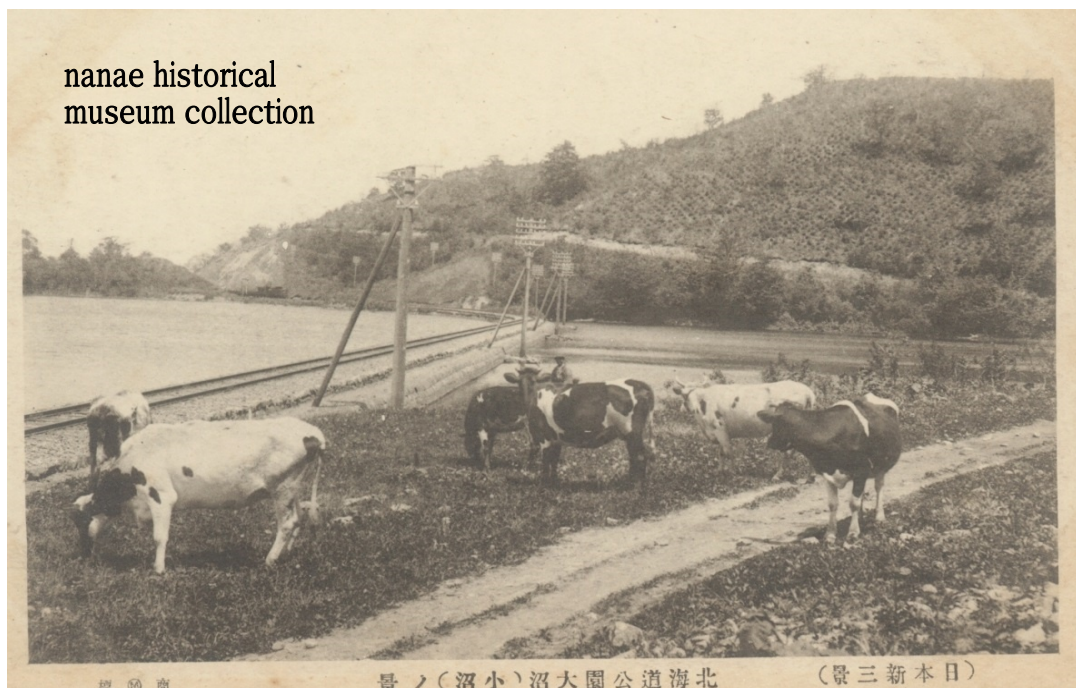
Pichari ~ピチャリ~

七飯町歴史館だより
第139号

ななえ古写真物語 VOL. 139

列車と牛と湖と

危なげな牧歌的風景
昭和4年か？
大沼地区



北海道新幹線の軌道を、札幌まで延伸するために、道南各地で開発が行われている中、昨年、二海郡八雲町は、新設予定の駅を牧場の中に建設するという整備計画を発表した。多くの自治体が、新幹線駅周辺の開発を行ない、都市化を図ろうとする中、牧歌的風景を売りにする八雲町の戦略は、斬新なのかもしれない。

とはいえ、新幹線は基本的に高架を走る乗り物だから、車窓と同じ目線に牛がいることはありえない。そんなことになったら、大惨事はまぬがれなくなるからだ。だから、あくまでも駅を出た時に、牧場の広がる景色があり、牛たちがのんびりと過ごしている様子を、目の当たりにできるという計画なのだろう。

さて、上の写真は、よく見てみると、かなり衝撃的な風景である。小沼を埋め立て敷かれた軌道。水を飲みに来ているのだろうか？ そのすぐそばでは、5頭ほどの牛たちが、草を食んでいる様子が写されている。それだけ見ると、のどかな景色といっても良いのだが、線路の先には、過ぎ去ったのか、これから通過するのか白煙をあげたSLの姿があるのだ。柵もない状態であることを考えると、今の時代では危険極まりない風景といえる。

このような景色が、かつての七飯町にあったことは、もう写真や絵画くらいでしか知ることが出来ないだろう。

ところで、この写真は絵葉書なのだが、右下に「日本新三景（写真は右書き）」という文字があることから、少なくとも、発行されたのは大正4（1915）年以降であることは確かである。また、かつてピチャリ第102号で紹介したSLの写真は、この写真にみられる、大きく屈折しながら山裾に続く道から撮影されたものと考えられる。

だとすれば、この道は昭和4年に建設された車道なのかもしれない。確かに、道には轍が見えるが、そもそも車道は一車線だったのだろうか？という疑問がわいた。

そこで鉄道敷設前の地図（明治29年測量）を調べてみたら、破線の表現ではあったが、すでに同様の道筋があったことがわかった。おそらく、昭和4年に開通したという車道は、すでにあった道も利用して、函館～大沼間を繋いだのだろう。だとすれば、この道が写っているという理由だけでは、詳細な年代が決められないことになる…。あらためて、考証の難しさを、まざまざと感じた写真でした。

5日

夜の博物館前期講座が始まりました。今までとは趣向を変えて、講師陣も様々に行ってまいります。第1回目は、当館学芸員が「考古学と世界遺産」と題し、何かと話題の世界遺産についてのお話をしました。登録されることで、今まで興味をもたなかった人々の裾野を広げるのは良いことですが、大切なのは、恒久的な保存。住んでいる人たちに、遺跡を大事に思ってもらいたい。歴史館では、見学に訪れる小学生に、縄文の素晴らしさを伝えるため、遺物を実際に見て、触れて、感じてもらうという体験を地道に行っています。



22日

ジュニア探検クラブを行いました。雨天のため、予定していた登山を中止し、まずは江差町の開陽丸記念館へ。展示してある資料の丁寧でわかりやすい解説をして頂き、他町の気候や歴史など多くのことを学んだ時間でした。昼食をとった後は、厚沢部町へ移動。郷土資料館を見学し、歴史館で見ることがない資料にも出会えました。一日で二つの博物館を見学した子供たち。登山に連れて行けなくて、残念な思いでしたが、見たもの、聞いたものを誰かに伝えてくれると嬉しいです。



地層に魅かれる

今月24日から始まる企画展「色と形のふしぎ」の準備で、町内外の「土」の採集を行っています。自然が発する色には、何とも言えない魅力があるもの。「土」もそのひとつです。美しい地層を見るとその色のグラデーションに単純に魅かれてしまうこともあります。そんな「土」の魅力を感じてもらうため、採集に奔走しています。塊から潰して、乾燥して、濾して、と作業を繰り返し行い、その色の多様さを皆さんにご覧頂ければと思っております。因みに世界の土はたったの12種類です。



編集後記 ~tawagoto~

企画展示の準備のため、土を集めている。粗い砂粒が含まれる土、珪藻のようなものが含まれる土、粒子が細かい土などなど、色も手触りも千差万別であることを知った。私たちにとっては、作物を育てる重要な役割ももつ土だが、古くは食用もあったと聞く（今でもあるのだろうか）。身近にありすぎて、侮っていたが、一方で大都会では減少傾向にあるそうだ。そう考えると、ヒトはどこへ向かっているのか、わからなくなる。（やまだひさし）

8月の予定

1	木	企画展開催中
2	金	
3	土	
4	日	
5	月	
6	火	
7	水	夜の博物館
8	木	
9	金	
10	土	
11	日	
12	月	
13	火	
14	水	
15	木	
16	金	
17	土	
18	日	
19	月	
20	火	ピチャリ140号発行予定
21	水	
22	木	
23	金	
24	土	ジュニア探検クラブ
25	日	
26	月	
27	火	
28	水	
29	木	
30	金	
31	土	

※8月の休館日はありません。

青 麦

季節にもなっている「青麦」が畑で風にそよいでいます。穂が出てゆらゆらと揺れる日が楽しみです。



Pichari

～ピチャリ～

第139号

令和元年7月20日発行

七飯町歴史館

〒041-1193 亀田郡七飯町本町6丁目1-3

電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182

E-mail : rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp